

事務事業チェックシート

事務事業No 759 事業名 学習補充教室推進事業（和歌山大学との連携協力推進事業）

[事業基本情報]

分野別目標	5	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち
政策	1	学校教育の充実
施策	1	学校の教育力の充実
基本方針	1	家庭・地域との連携強化

事業種別	継続	主な事務事業
事業期間	H24	～
事業実施の根拠法令		
関連個別計画		
担当課・担当課長 (Tel)	教職員課	加藤 正彦 (435-1196)
関連課		

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費
	その他		
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務
	その他		
会計・予算区分	会計		一般会計
	款		教育費
	項		教育総務費
	目		教育振興費
	大事業		教育振興事業
事項		学習補充教室推進事業	

「3つの約束・44の約束」との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
			○	
44の約束				○

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）	事業内容				
	和歌山大学と連携し、教育ボランティアを派遣することで、子どもたちの基礎学力や体力を向上させる。	和歌山大学教育学部と委託契約を結び、和歌山大学教育学部内に学習支援推進室を設置することで、学校現場と学校の支援活動を希望し登録している学生それぞれのニーズを調整し、和歌山市の公立幼・小・中・高等学校の教育活動に学生を派遣する。学生は、授業補助や部活動指導補助等をボランティアで行っている。				
実施内容		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		幼稚園、小学校、中学校、高等学校にボランティアを配置した。	幼稚園、小学校、中学校、高等学校にボランティアを配置する。	幼稚園、小学校、中学校、高等学校にボランティアを配置する。	幼稚園、小学校、中学校、高等学校にボランティアを配置する。	幼稚園、小学校、中学校、高等学校にボランティアを配置する。

2 事業コスト

事業費等 千円		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	計画	決算
	事業費	4,414	4,414	3,972	3,972	4,030		4,414		4,414	
	伸び率 (%)	-	-	-10.0%		1.5%		9.5%		0.0%	
	人件費	常勤職員	1,323	1,333	1,333	1,304	1,304		1,304		1,304
		非常勤職員	0	0	0	0	0		0		0
		小計	1,323	1,333	1,333	1,304	1,304		1,304		1,304
	国庫支出金										
	県支出金										
	市債										
	その他										
	一般財源 (税等)	4,414	4,414	3,972	3,972	4,030		4,414		4,414	
	所要人数	常勤職員	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18		0.18		0.18
非常勤職員		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0		0	
主な予算内訳	委託料 4,030千円										

3 目標及び実績

活動指標	指標名及び達成状況					平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	教育ボランティア登録学生人数	年度目標値				250	250	250	250	250
		実績値				213	188			
	単位	人	全体目標値	250	全体目標達成度	85.2%	75.2%			
	教育ボランティア活動学生人数	年度目標値				220	220	220	220	220
		実績値				185	184			
単位	人	全体目標値	220	全体目標達成度	84.1%	83.6%				
成果指標	教育ボランティア配置校数	年度目標値				84	84	84	84	84
		実績値				63	70			
	単位	校	全体目標値	84	全体目標達成度	75.0%	83.3%			
	教育ボランティア延べ派遣回数	年度目標値				2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
		実績値				1,964	1,600			
	単位	回	全体目標値	2,000	全体目標達成度	98.2%	80.0%			

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	事業実施に伴い、教育ボランティアの派遣校が全校園数の4割弱であったが、7割に増加した。学校園に行ったアンケート調査においても、子どもたちとの豊かな心の交流ができた、学校活性化につながった等、好評であった。和歌山市の教員の育成にも寄与する事業である。
「見直し」 「改善」案	派遣学校園でのボランティア内容の充実について、和歌山大学と連携しながら取り組んでいきたい。